

## 事務事業計画書兼評価表(A表)

1 事務事業に関する基本情報				平成	29	年度
事業番号	425	事業名	図書館管理費			
担当課	郡家図書館	担当係	—			
総合計画に最も関連ある施策	施策	6	こころ豊かな人づくり	連絡先	0858-72-6660	
	施策体系	4	芸術・文化活動の推進	事業区分	□新規 ■継続	
	主な事業	図書館の蔵書の充実、生涯学習の推進				
予算区分	款	9	教育費	事業実施主体	■八頭町 □その他	
	項	4	社会教育費			
	目	3	図書館費	計画期間	開始	—
	事業	425	図書館管理費		終了	—

### 2 事務事業の概要

事業の対象	誰(何)に対してこの事業を行うのか記載 八頭町民					
事業の目的	誰(何)をどうするためにこの事業を行うのか記載 地域の文化・情報の拠点施設として、町民に必要な様々な情報を提供し、すべての人に文化的で潤いのある生活を保障する。					
事業の内容	事業の規模や業務量などを具体的に記載 「いつでも、どこでも、だれでも」図書の貸し出しを行うことにより地域の課題解決に向け、必要な資料や情報を提供する。					
事業の手段	どうする方法、手順で事業を進めるのか、具体的に記載 図書館の資料を幅広く提供し町民に役立つ、利用しやすい図書館として積極的な生涯学習の推進を図っていく。					
事業の成果到達点	どんな成果を得たいのか、または、何がどうなれば達成か、具体的に記載 豊かな心を育むべく、生涯学習の場として図書館の蔵書の充実により利用者数が増加する。					
根拠法令等	1	1. 法令(義務) 2. 法令(任意) 3. 条例 4. 規則・要綱等 5. なし			法令等名→	社会教育法、図書館法

### 3 活動指標、成果指標

活動指標		単位	事業の手段を図るものさし			
	A	千円	新刊図書の購入			
	B	回	公共施設及び地域の施設への団体貸出			
	C	回	移動図書館車による遠隔地の巡回サービス			
	D					
成果指標		単位	事業の成果、到達点を図るものさし			
	A	人	図書館の年間の利用者数			
	B	冊	住民一人当たりの貸出数(貸出密度)をみる(貸出数/人口)			
	C	冊	登録者一人当たりの貸出冊数(貸出数/登録者数)			
	D	人	図書館利用者の登録状況			

### 4 コスト

区分		単位	26年度	27年度	28年度		29年度		30年度
			実績	実績	目標	実績	目標	実績	目標
活動指標	A	千円	3,000	3,000	3,100	3,099	3,100	3,100	3,100
	B	回	12	12	12	12	12	12	12
	C	回	182	187	185	175	186	185	186
	D								
成果指標	A	人	28,083	26,095	29,300	25,481	29,300	22,551	29,300
	B	冊	7.02	6.63	7.28	6.49	7.90	5.80	8.08
	C	冊	16.79	15.19	17.00	14.27	17.00	13.80	17.00
	D	人	7,554	7,774	7,900	7,993	8,182	8,191	8,374
トータルコスト		千円	33,814	33,715	37,968	37,476	43,328	44,171	43,663
担当職員数		人	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
職員人件費		千円	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000
事業費		千円	25,814	25,715	29,968	29,476	35,328	36,171	35,663
事業費財源内訳	国庫支出金(交付金・補助金)	千円							
	県支出金(交付金・補助金)	千円							
	地方債(借入金)	千円							
	事業収入(使用料・参加費等)	千円							
一般財源(単町費)		千円	25,814	25,715	29,968	29,476	35,328	36,171	35,663

## 事務事業計画書兼評価表(B表)

### 5 実施活動内容・成果(到達点)

平成 29 年度

実施活動内容・成果(到達点)	実施活動内容(具体的に) 学校との連携のもと図書館サービスの充実を図りながら、各種事業を展開した。保育所児童への読み聞かせや定例おはなし会などの開催、ブックスタート・ブックセカンド・ブックサードの取組を行い、図書館利用を促進させた。くらしと仕事を支援する講座等を開催し、魅力ある図書館づくりを進めた。
	成果(具体的に) 児童書、絵本等38,142冊の貸出を行い(全体貸出冊数の37.7%を占める)、子どもたちの図書利用の促進を図った。おはなし会、ブックスタート、町内の全保育所への配本を実施した。

### 6 事務事業の評価

評価項目	評価点	点数	チェックポイント	判断理由・評価コメント(具体的に記入のこと)
<b>必要性</b> (町民ニーズ)	20	20	①必要性が高い	活字離れが進むなかにあつて、文学などの読書活動は重要な要素であり、知識の習得にも貢献することができる。
		13	②どちらかと言えば必要性がある	
		7	③必要性が低い	
		0	④必要性がない	
<b>妥当性</b> (町が行わなければならないか)	20	20	①町が行わないといけない	町が直営で行うことにより、本の貸出業務だけでなく、町の図書館としての独自の事業展開や学校への支援、学校との連携を行うことができ、図書館としての機能を十分に発揮することができる。
		13	②どちらかと言えば町が実施	
		7	③妥当性が低い	
		0	④妥当性がない	
<b>効率性</b> (コスト削減の余地は無いか)	13	20	①効率的である	町内3館の密接な連携による図書の管理を行いながら、各地域での利便性を確保することができている。
		13	②どちらかと言えば効率的である	
		7	③どちらかと言えば非効率的である	
		0	④非効率的である	
<b>緊急性</b> (他事業に優先し実施する必要があるか)	13	20	①緊急性が高い	図書館は、地域における情報収集・発信の拠点であり、日頃から町民へ新しい情報を提供するという重要な役割をもっている。
		13	②比較的緊急性がある	
		7	③緊急性が低い	
		0	④緊急性がない	
<b>成果</b> (目的の達成状況)	13	20	①成果が上がっている	おはなし会、保育所児童への読み聞かせ、各図書館独自の事業等の開催により、新規利用者の増加につながっている。少子高齢化・人口減少が進むなか、成果が数値として現れにくくなっている。
		13	②どちらかと言えば上がっている	
		7	③どちらかと言えば上がっていない	
		0	④成果が上がっていない	

一次評価	事業の方向性	点数	評価点合計	判定に至った理由
2	1、拡充する	80点以上	79	図書館利用者全体としては減少しているが、各種事業に取り組むことにより新規の利用者数は増えている。また、学校統合に伴って各学校の図書館司書が専任となり、公共図書館が学校図書館を支援することによって学校図書館の利用者は増加したが、そのことは公共図書館の成果指標には反映されていない。
	2、現状維持	60～79点		
	3、改善・効率化し継続	50～59点	2	
	4、見直しの上縮小する	40～49点		
	5、終期設定し終了	30～39点		
	6、休止	20～29点		
	7、廃止	19点以下		

二次評価	事業の方向性	判定説明・意見
2	1、拡充する	図書館は、格差社会が広がる中であつて、誰であつても知識や情報に平等に接することができる貴重な場所であり、人々の教養や生活を豊かにするための重要な役割を担っている。しかし、インターネットやスマートフォンの普及等を背景として、人々の活字・書籍離れが進行している状況にあり、本町の図書館の利用状況を見ても、住民一人当たりの貸出数は依然として減少傾向にある。一方、幼児や小・中学生などの幼少・年少期にあつては、絵本の読み聞かせや読書活動が与える発育・発達・成長への好影響が認められているところであり、その重要性が社会的にも認識されているところである。本町においても、児童書・絵本等の貸出が全体貸出数の約4割を占める状況が続いていることから、今後も子ども達に焦点を当てながら、図書の充実、イベントの実施、また、学校図書との連携等の取組を引き続き行われたい。また、全国的には、図書館を地域住民の交流の場や文化活動の場などとして活用する例も見受けられることから、図書館本来の機能以外のものをマッチングさせるなど、図書館を有効的に活用する方法等について検討を行って行く必要があると考える。
	2、現状維持	
	3、改善・効率化し継続	
	4、見直しの上縮小する	
	5、終期設定し終了	
	6、休止	
	7、廃止	

### 7 課題及び今後の方向性

課題	事業活動に当たり、一番の問題と捉えていること。重点的に手当てする事柄、改善点、工夫したい箇所 現在図書館を利用していない人が、どのようにしたら利用してくれるのかその利用方法を考える必要がある。
今後の方向性	上記課題を解決していくため、次年度どんな活動を展開していくのか 現行のやり方を継続しながらも、地域に密着した新規事業を取り入れ、新規利用者を増やすよう展開していく。